

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を 一体的に推進していきます

「地域とともにある学校づくり」を目指して、令和7年4月に、原町小学校、不動小学校、第一中学校を先行実施校として学校運営協議会を設置しました。

学校運営協議会と 地域学校協働活動がスタート

各校では学校運営協議会が開催され、会長の互選、学校長からの学校経営方針の説明等が行われました。授業等の参観や学校の現状分析等を実施し、学校の課題や児童・生徒の様子について活発に意見交換をしています。

また、「学校を核とした地域づくり」を推進するため、地域応援団による地域学校協働活動を一体的に推進しています。先行実施校では、新たに任命された6名の地域コーディネーターが活躍しています。



▲学校運営協議会の様子(第一中学校)



▲授業参観の様子(第一中学校)



▲学校運営協議会の様子(原町小学校)



▲地域応援団と地域が連携した活動の様子(不動小学校)

子どもたちをまんやかに

学校と地域の絆を深める活動に参加してみませんか

1 コミュニティ・ スクールって何？

学校運営協議会を設置した学校のことです。学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映する仕組みです。

2 地域学校協働活動とは？

幅広い地域住民等の参加を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことです。

3 学校運営協議会では何をするの？

主な役割は、校・園長が作成する学校運営の基本方針を承認すること、学校運営に必要な支援について検討し教育委員会や学校・園へ意見をすることなどです。委員は、保護者や地域住民など、1校につき6～10人で構成されています。

4 地域コーディネーターは何をする人？

地域住民等と学校との連絡調整等を行う地域学校協働活動推進員のことです。社会教育法に基づき教育委員会が委嘱します。

今後の設置予定

令和9年度までに半数の区立学校・園に学校運営協議会を設置し、令和11年度までに全ての区立学校・園に設置することを目標としています。

令和8年度に設置予定の学校・園

菅刈小学校、下目黒小学校、中目黒小学校、五本木小学校、月光原小学校、中根小学校、東山中学校、げっこうはらこども園

令和7年度 全国学力・学習状況調査と 目黒区学習状況調査の結果

全国学力・学習状況調査

児童・生徒の学力や学習状況を把握するために、文部科学省が実施しています。調査対象は、小学校第6学年と中学校第3学年です。4月17日に実施した調査結果の概要をお知らせします。

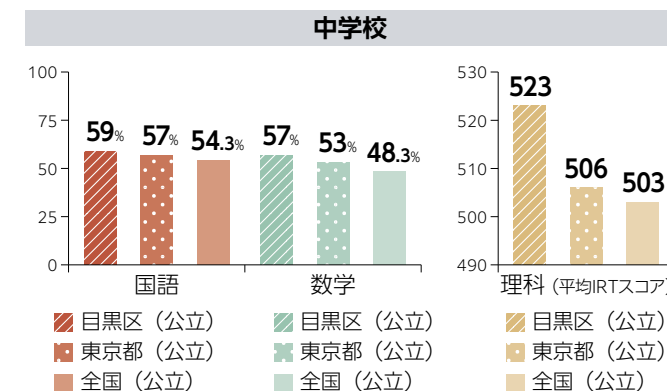
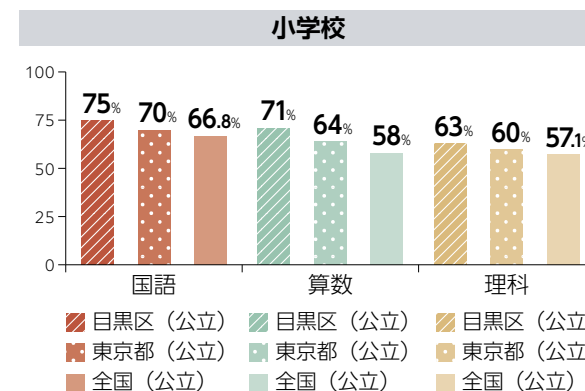
教科に関する調査結果

目黒区の平均正答率^(※1)やIRTスコア^(※2)は、小・中学校ともに、調査した全教科において、全国平均・東京都平均を上回りました。今後も「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、目黒区立学校の児童・生徒の学力向上を図っていきます。

※1 平均正答率：国語、算数・数学の平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位までを示し、東京都及び目黒区の平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示している。

※2 IRTスコア：IRTとは 国際的な学力調査や英語資格・検定資格で採用されているテスト理論。IRTスコアとは、このIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。数値が高いほど、学力が高いとされる。今回の調査では中学校理科が本方式で調査を実施した。

平均正答率の比較



目黒区学習状況調査

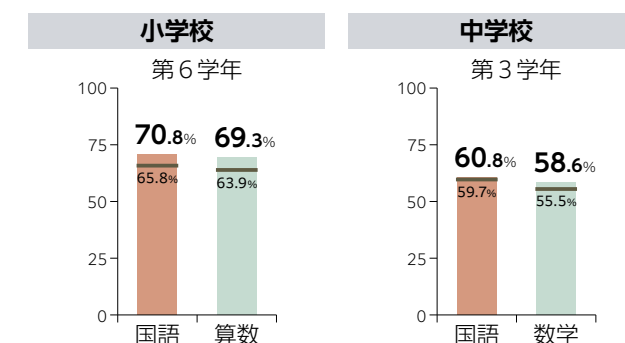
昨年と同様、小学校第6学年及び中学校第3学年は5月12日から6月6日までの間で学校が指定した日にオンライン方式で、小学校第1学年を除くそれ以外の学年は4月23日に筆記方式で実施しました。調査結果は、小・中学校ともに、対象の全学年・全ての教科において全国平均正答率を上回りました。特に、国語の区平均正答率は、小学校第4・5学年で共に7.8ポイント、数学の区平均正答率は、中学校第2学年では10.3ポイント、全国平均正答率を上回っていました。

※——は全国平均正答率を示しています。



調査結果を踏まえ、ICT機器も活用しながら授業の工夫・改善を図っていきます。

平均正答率(オンライン方式)



平均正答率(筆記方式)

